

本多実夏子さんの「挑戦」

校長 野口 祐人

2月16日、高校卒業前のわずかな時間を割いて、本校卒業生の本多実夏子さんに来校いただき、講演をしていただきました。一部を紹介します。

本多実夏子さん（平成29年度卒業）
本校卒業後、岡山県作陽高校に進学。親元を離れ、寮生活を送りながら女子サッカー一部で活躍。2年生からはレギュラーを勝ち取り、全日本高校女子選手権や皇后杯全日本女子選手権等に出場。3年生で出場した皇后杯では、愛媛FC相手に見事なゴールを決めた。また、3年生の最後に行われた第29回全日本高等学校女子サッカー選手権大会では、準優勝に輝いた。今後は大学でサッカーを続け、WEリーグ（2021年9月開幕予定の日本初女子プロサッカーリーグ）でのプレーを目標にしている。

- 「できるかできないかよりも、まずやってみること」～「挑戦」～
- ・高校選びの時、たくさんの学校を見て回ったが、しっくりせず、たまたま練習に行く予定だった高校の隣でやっていた作陽高校の練習試合にオマケとして混ぜてもらった。そうしたらとても楽しかったことが作陽高校を選んだきっかけ。
 - ・しかし、本当にレベルが高く、3年間で自分が試合に出られる保障は1ミリもなかった。
 - ・中学の時、すぐに楽な方に逃げてしまう性格だったが、中学の監督から「それならチャレンジしてみろ」と言われ決断した。
 - ・この決断は、私にとって本当に大きな決断だった。
 - ・そして、全校制覇が目標になった。
 - ・1年生の時は、部内で一番下のCチームだったので、試合に出られない時期が続いた。小学生の頃から試合に出られなかったことがなかったので、試合に出られず、つらく、苦しい日々だった。さらに、当時は先輩も怖かったし、1年生なので寮の部屋に集まることもできず、毎日、1年生は自然と屋上に集まり、「帰りたいたい」「辞めたい」と泣きながら話していた。
 - ・私はどうしたいんだろうと自問自答の日々。でも、練習するしかない、うまくなるしかないという答えに行き着いた。答えはシンプル。考えたらわかることなのだけれど、人間、いつも冷静じゃあられないこともわかった。
 - ・それからは、ひたすら自分の壁に向き合って練習。途中までただがむしゃらに練習していたが、考えながらの練習に変わっていった。すると、2年生途中からレギュラーになれた。
 - ・作陽に行くという決断をしていなかったら、この結果はなかった。そして、挑戦し続けることをしなかったら、あきらめてたら、試合に出られなかった。
 - ・ちょっと無理かなと思って、思い切って挑戦してみたい。無理かもと思って最初からやらないのは、本当にもったいない。たとえ結果が出なくても、挑戦すれば人生の財産になる。
 - ・西中生には、「できるかできないかよりも、まずやってみること」「挑戦する」ことを大事にしてほしい。思い切って挑戦を。

講演後、校長室で話してくれたことの中から、2つだけ紹介します。

一つは、高校生活の補足です。3年間、お菓子と清涼飲料水は全て禁止だったそうで、スーパーなどに買い物に行くと、お菓子売り場は見ないように目をつぶっていたとのことでした。もちろんほかにも、たくさん犠牲にしてきたものがあつたそうですが、「一番好きなものをかなえるには、2番目に好きなことはがまんしなければならない」と話していました。

もう一つは、家族に対する感謝です。母、父、祖母には、本当に感謝していると話していました。「母には、離れていたけど、本当によく面倒を見てもらった。父にも感謝しているけれど、父は厳しかったので、面と向かっては感謝の言葉をまだ言えていない。」とのことでした。

本校にとって、とても貴重な、とてもいい時間をいただきました。わずかな帰郷の時間に、スピーチ原稿まで作って来校して下さった本多さん、本当にありがとうございました。これからの活躍とご多幸を祈ります。応援しています。

本校を卒業する3年生、「流汗拓道」です。全員が本多さんのようにはなれないかもしれませんが、心と体の汗を流して、自分の道を切り拓いていってください。みなさんの人生に幸多きことを祈ります。